

御国の福音

第7回：イザヤ書と御国の計画（後編）¹

目次

はじめに p. 2

I. ひとりのみどりごが生まれる（9:6-7） p. 3

II. 苦難のしもべ（42、49、52-53章） p. 4

III. しもべ、イスラエル、諸国民 p. 7

IV. 新しい地の到来（60-66章） p. 9

イザヤ書における御国の計画（後半分）のまとめ p. 13

はじめに

A. イザヤ書前半における御国の計画のまとめ

1. 預言書では、アブラハム契約、モーセ五書（特に申命記）で語られたイスラエルの将来に関する預言、そしてダビデ契約の成就に重点が置かれている。
2. メシアの統治下ではエルサレムが高く上げられ、諸国民も祝福される。また、メシアの統治下では世界的な平和が実現する（2:1-4）。
3. 王であるメシアはダビデの子として来られる（11:1）。
4. メシアの統治下では、イスラエル、諸国民、動物界も含め、被造世界が理想的な状態に回復される（11:6-16）。
5. メシアの統治下では、異邦人もまたイスラエルのように神の民となる（19章）。
6. まずイスラエルと諸国民の罪に対する世界大の裁きがあり、それからメシアによる地上的王国が建てられる（24-27；34-35章）。

B. イザヤ書の後半（40-66章）について

1. 慰めの言葉で始まる。
40:1 慰めよ、慰めよ、わたしの民を。——あなたがたの神は仰せられる。——
2. 全体に渡って、イスラエル・諸国民・被造世界の回復（霊的・物質的両方）が強調されている。
3. 今回の主役は「ヤハウエのしもべ」である。そして、「しもべ」の預言の礎とも言うべき、9:6-7の解説から講義を始める。
4. 本講義のテーマ：御国の計画は、イエス・キリストの十字架なしでは実現しない。

1. ひとりのみどりごが生まれる (9:6-7)

A. イザヤ書 9:6-7 のポイント

1. この預言が与えられた文脈

- (1) 北王国イスラエルはアッシリアによって滅ぼされる (8:4)。
- (2) 南王国ユダもまた裁かれる (8:5-22)。
- (3) イスラエルの民は裁きの後に回復される (9:1-5)。
- (4) この預言は、イスラエルへの希望の預言である。

2. メインポイント

- (1) ダビデの子であるメシア的王は、「ひとりのみどりご」として来られる。
- (2) 「みどりご」として来られる王は、神でもある。
- (3) この王によって、人類史上初めて義と平和が特徴的な社会が実現する。

B. 解説

1. 人であり神である王 (6 節)

- (1) イスラエルに希望をもたらす者が、「ひとりのみどりご」、「ひとりの男の子」としてお生まれになる。
- (2) メシア的王は、ダビデの子孫として生まれるひとりの人間である (7 節 ; 11:1-5 参照)。
- (3) 「ひとりのみどりご」には 4 つの名が与えられている。
 - a) 不思議な助言者
 - b) 力ある神
 - c) 永遠の父
 - d) 平和の君
- (4) 4 つの名は、いずれも神に適用される呼び名である²。

(5) 神であるヤハウェご自身が、ダビデの子孫である王となられるため、「ひとりのみどりご」としてお生まれになる。こうして、ダビデ契約（IIサム7:12-16）が成就する。

(6) なお、メシアは処女からお生まれになる（イザ7:14）。

2. 「ひとりのみどりご」の主権（6-7節）

(1) 6節では、「みどりご」としてお生まれになる王の肩に「主権」があると言われている。

a) 「主権」と訳されている言葉 (*hamisrah*) は「支配」や「統治」を意味している。

b) 英語 (English Standard Version) では「the government」と訳されている。

(2) 「ひとりのみどりご」であるメシアは、社会的・政治的な主権をお持ちになる。

(3) メシアを王とする政府によって、アダム以降呪われた地上に初めて、「さばきと正義」や「平和」が特徴的な社会が実現する。

a) これは、メシアご自身が神であることにより実現する。

b) また、「万軍の**主**の熱心がこれを成し遂げる」。

II. 苦難のしもべ（42、49、52-53章）

A. 「ヤハウェのしもべ」の預言について

1. 「ヤハウェのしもべ」の預言

(1) イザヤは、イスラエルの救い主として来られる王が、人であり、神でもあることを預言した。

(2) イザヤ書の後半（特に42、49、52-53章）では、王が「ヤハウェのしもべ」でもあることが明かされる。

- (3) 「しもべ」という言葉がイスラエル民族全体を指すのか（たとえば 42:18-22）、メシア個人を指すのかは文脈によって判断される。
- a) 42:1-9、49 章、52-53 章に登場する「しもべ」は、イスラエルの民に回復をもたらす存在である。よって、これらの箇所では「しもべ」がイスラエル民族全体だと意味を成さなくなってしまう。
 - b) イザヤ書のそれまでの預言では、イスラエルの民に回復をもたらすために用いられるのは、一貫してメシア的王である。
 - c) 王はイスラエルを代表する存在である。
 - d) したがって、以上の箇所で預言されている「ヤハウエのしもべ」は、メシア個人を指すと考えるのが妥当である³。
- (4) 創世記 1-2 章によれば、人は「神に仕える王」として創造された。その成就であるメシアは、王であり、同時にヤハウエに仕える「しもべ」でもある。

2. 王でありメシアである「ひとりのみどりご」は、まず神に仕える「しもべ」となるべくお生まれになる。

B. 「ヤハウエのしもべ」による贖いの御業（52-53 章）

1. 「しもべ」がある個人を指しているという最大の根拠は、イザヤ書 52-53 章にある。
- (1) イザヤ書 52-53 章によれば、ヤハウエのしもべは、イスラエルの民の罪を贖うお方である。
 - (2) このしもべがイスラエル民族であれば、イザヤ書 52-53 章は意味を成さない。
2. 王である「ヤハウエのしもべ」は、「苦難のしもべ」である。
- (1) イザヤ書 53:4-10 を参照せよ。
3. 罪はイスラエルの、そして人類全体の最大の問題である。
- (1) モーセ契約が与えられた直後から、イスラエルは不従順な道を歩み続けた。

- (2) イスラエルが裁かれるのは、その罪深さゆえである。
 - (3) 神と人との関係を表す「リトマス試験紙」であるイスラエルに言えることは、異邦人にも該当する。
 - (4) 人類全体の問題は、罪にある。
4. 神の御国が成就するためには、罪の問題が解決しなければならない。
- (1) イスラエルも諸国民も、回復に向かうには罪の問題を解決する必要がある。
 - (2) したがって、彼らが回復され祝福される御国が実現するには、まず罪の問題が解決される必要がある。
5. 御国をもたらす者が、御国の民の罪を贖わなければならない。
- (1) イスラエルも諸国民も、自ら罪を解決することはできない。
 - (2) 神であり人である王は、神と人との間に立つ祭司でもある（詩篇 110 篇）。
 - (3) 御国が実現するためには、御国をもたらす神、人類を代表する王、そして神と人との間を執り成す祭司であるメシアご自身が、罪からイスラエルと諸国民を贖う必要がある。
6. 創世記以降啓示されてきた御国の計画は、イエス・キリストの十字架なしでは実現しない。

III. しもべ、イスラエル、諸国民（49章）

A. イザヤ書 49 章に見られる御国の計画の重要な要素

1. イスラエルの代表である「しもべ」
2. イスラエル民族の回復と帰還
3. 異邦人の救い
4. 約束の地とイスラエルの回復
5. 諸国民は「しもべ」とイスラエルに仕える

B. 解説

1. イスラエルの代表である「しもべ」

(1) イザヤ書 49 章は、「しもべ」自身の語りによって始まっている（1-3 節）。

(2) 3 節では「しもべ」が「イスラエル」と呼ばれている。よって、「しもべ」の正体について、歴史的にはいくつかの選択肢が提示されてきた。

- a) イスラエル民族全体
- b) イスラエルの少数の信仰者（残された者）
- c) イスラエルを代表するイザヤ
- d) イスラエルを代表するメシア

(3) 5-6 節によれば、「しもべ」の役割は、イスラエルを神に立ち返らせ、また彼らを「集める」「帰らせる」ことである。この役割をふまえると、「しもべ」とはメシアであることがわかる⁴。

(4) これまでの学びをふまえると、メシアはイスラエル人（ダビデの子孫）の王である。よって、メシアはイスラエル民族の代表であり、真のイスラエル人としてふさわしい方である。

2. イスラエル民族の回復と帰還

(1) 「しもべ」の役割は、イスラエルをヤハウエに立ち返らせ（5 節）、「イスラエルのうちの残されている者たちを帰らせる」ことである（6 節）。

- (2) 直前の48章のテーマは「バビロンからの解放」であった⁵。文脈からわかる「しもべ」の役割は、イスラエルに霊的回復をもたらすことと、離散の地からの帰還をもたらすことである。
- (3) 申命記30章において、イスラエルの信仰への回帰と離散の地からの帰還はセットで語られていた。
- (4) モーセが預言していたイスラエルの将来は、「しもべ」、すなわちメシアであるイエスによって成就する。

3. 異邦人の救い

- (1) 「しもべ」には異邦人の救い主となるという役割も与えられている（6節）。
 - a) 「しもべ」にとって、イスラエルに回復をもたらすという役割は「小さなこと」である。
 - b) 「しもべ」は「国々の光」でもあり、「地の果てまでわたし [ヤハウエ] の救いをもたらす者」である。
- (2) 異邦人の救いの土台は、イスラエルの救いと同様に「しもべ」の苦難である（52:15 参照）。

4. 約束の地とイスラエルの回復

- (1) 「しもべ」によって、イスラエルは約束の地での回復を経験する（8、15-26節）。
 - a) 「しもべ」はイスラエルの「民の契約」となり、「国を復興」し、「荒れ果てたゆずりの地を受け継がせる」（8節）。
 - b) 回復されたイスラエルは、約束の地で増え広がる（20節）。
 - c) イスラエルが帰還するとき、「しもべ」によって救われた諸国民が用いられる（22節）。
- (2) アブラハム契約の祝福は、「しもべ」によって成就する。

5. 諸国民は「しもべ」とイスラエルに仕える

(1) 「しもべ」の辱めと高揚（7節）

- a) 「しもべ」は「人に蔑まれている者」、「国民に忌み嫌われている者」、「支配者たちの奴隷」である（7節 a）。これらは「しもべ」の苦難を示唆している。また、52-53章の「苦難のしもべ」と対応している。
- b) しかし、王たちや首長たちは「しもべ」に仕えるようになる（7節 b）。

(2) 「しもべ」によりイスラエルと諸国民が回復された結果、諸国民はイスラエルに仕えるようになる（22-23節）。

IV. 新しい地の到来（60-66章）

A. イザヤ書のゴール

1. 「苦難のしもべ」による罪からの贖い（52-53章）により、御国が実現していくための準備が整った。

2. イザヤ書 59章

(1) イザヤは 59章において、イスラエルの民族的罪を告白している。

(2) 59章のゴールは、イスラエルの罪が贖われることである（20節）。

(3) イスラエルの「残された者」がヤハウエに立ち返る時、新しい契約の祝福が与えられる。

59:21「これは、彼らと結ぶわたしの契約である。——主は言われる——。あなたの上にあるわたしの霊、わたしがあなたの口に置いたわたしのことばは、あなたの口からも、あなたの子孫の口からも、子孫の子孫の口からも、今よりとこしえに離れない——**主**は言われる。」

(4) イスラエルが民族的罪を認めて告白することは、イスラエルが民族的に新しい契約に入れられることに繋がっていく。

3. イザヤ書のゴール

- (1) 59章に書かれたイスラエルの民族的回心と新しい契約を土台にして、60-66章では、神の地上的王国の成就が詳しく記されている。
- (2) 終幕の始まり：60:1-3
「起きよ。輝け。まことに、あなたの光が来る。主の栄光があなたの上に輝く。見よ、闇が地をおおっている。暗黒が諸国の民を。しかし、あなたの上には主が輝き、主の栄光があなたの上に現れる。国々はあなたの光のうちを歩み、王たちはあなたの輝きに照らされて歩む。」
- (3) 60-61章においてイスラエルに約束されている祝福
 - a) 諸国民と王たちがイスラエルのもとに来る（60:5、11）。
 - b) イスラエルは物質的豊かさを経験する（60:6-9、17；61:7）。
 - c) 約束の地から暴虐が取り除かれる（60:18）。
 - d) ヤハウエご自身がイスラエルの「永遠の光」となる（60:19-20）。
 - e) イスラエルはみな「正しい者」となる（60:21a）。
 - f) イスラエルは「永遠にその地を所有する」（60:21b）。
 - g) イスラエルの町々が復興される（61:4）。
 - h) イスラエルは「永遠の契約」に与る（61:8）。
- (4) 62章は、神がイスラエルの回復を確実に実行されることを強調している。そして、国々はイスラエルの回復を目撃する（62:2）。
- (5) 63章では、神がイスラエルを回復させられる過程で、彼らの敵を徹底的に裁かれることが預言されている（特に63:3-6を参照）。
- (6) 65:17-25で「新しい天と新しい地」の預言が語られる。これが、イザヤ書全体のゴールである。
 - a) 御国の祝福は「新しい天と新しい地」において完全に成就する。
 - b) 「新しい天と新しい地」において、イスラエルと異邦人はともに、主にあって喜び楽しむ。
 - c) 「新しい天と新しい地」での祝福には、寿命の延長、動物界の回復（11章と同じ内容）なども含まれている。

(7) 御国のゴールは、全ての被造物によるヤハウエ礼拝の回復である (66:22-23)。

(8) イザヤ書全体は、神の裁きの厳粛さを述べて終わる (66:24)。

a) イザヤはイスラエルがヤハウエに立ち返ることを望んだ。

b) イザヤ書では、神が裁きの神であることと、恵みの神であることの両方が強調されている。

c) 神の裁きの厳粛さについてのメッセージを受け取ることは、現代の私たちにとっても伝道の強い動機となる。

B. イザヤ書における「新しい天と新しい地」について

1. イザヤ書と黙示録の「新しい天と新しい地」

(1) ヨハネの黙示録 21:1 以降は、千年王国の後に現れる「新しい天と新しい地」の預言となっている。

黙 21:1 「また私は、新しい天と新しい地を見た。以前の天と以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。」

(2) ギリシャ語の比較

a) イザヤ書 65:17 (七十人訳) 「*ouranos kainos kai ēn gē kainēn*」

b) 黙示録 21:1 「*ouranon kainon kai gēn kainēn*」

(3) イザヤ書 65:17 と黙示録 21:1 では、「新しい天と新しい地」についてほぼ同じ言葉が使われている。しかし、その記述には違いがある。

2. イザヤ書と黙示録の違い

(1) 黙示録における「新しい天と新しい地」では「もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しきもない」(21:4)。

(2) イザヤ書 65 章では未だに罪と死が存在している。

65:20 「そこにはもう、数日しか生きない乳飲み子も、寿命を全うしない老人もいない。百歳で死ぬ者は若かったとされ、百歳にならないで死ぬ者は、のろわれた者とされる。」

- (3) よって、イザヤ書における「新しい天と新しい地」の状態は、千年王国で成就するものと考えられる。
- (4) しかし、黙示録では千年王国の後に「新しい天と新しい地」が現れると預言されている。どのように考えたら良いのか？

3. 問題の解決案

案1) 無千年王国説：イエスの再臨と永遠の秩序（新しい天と新しい地）の間には、千年王国（一時的な地上的王国）は存在しない。

- a) 一部の無千年王国主義者⁶のように、永遠の秩序を「霊的な王国」ではなく「霊的かつ物質的な地上の王国」と解釈するなら、可能性はある。
- b) しかし、詩篇やイザヤ書前半、またイザヤ書 65:20 のように、地上の王国においても人々の罪は完全になくなっていないと述べている預言がある。
- c) また、黙示録 20 章の解釈についての問題もある。
- d) したがって、千年王国の預言と永遠の秩序の預言を完全に同一視するのは無理があると考えられる。

案2) イザヤ書では、まだ千年王国（黙 20 章）と永遠の秩序（黙 21-22 章）の区別がされていない。

- a) 預言においてよく見られる現象である。
- b) 例：メシア預言において、メシアの初臨と再臨は明確には区別されていない。

案3) ヨハネは、永遠の秩序を表現するために、イザヤ書の「新しい天と新しい地」という表現を引用した。

- a) あくまで、旧約聖書で預言されているのはメシアの地上的王国（千年王国）までである。永遠の秩序は、新約聖書で与えられた新しい啓示であるとする。
- b) ヨハネは、永遠の秩序に関する幻を見たとき、「新しい天と新しい地」という以上にふさわしい表現を思いつかなかったということになる。

以上の解決案はどれも弱点を持っている。しかし、総合的に考えれば、案2もしくは案3が聖書の記述と調和するものと考えられる。

イザヤ書における御国の計画（後半分）のまとめ

1. 御国の計画が成就するためには、ヤハウエの「しもべ」の受難によって人々の罪が贖われる必要がある。
2. ヤハウエの「しもべ」はイスラエルを代表する存在であり、イザヤ書前半におけるダビデ的王（すなわちメシア）と同一人物である。
3. ヤハウエの「しもべ」はイスラエルと諸国民の回復をもたらす。
4. イスラエルと諸国民が回復させられる時、地上もまた、エデンの園のような墮落前の理想的状態に回復させられる。

¹ 本講義は以下のテキストに基づく。Michael J. Vlach, *He Will Reign Forever: A Biblical Theology of the Kingdom of God* (Silverton, OR: Lampion Press, 2017), 145–78.

² アーノルド・フルクテンバウム『メシア的キリスト論-旧約聖書のメシア預言で読み解くイエスの生涯-』佐野剛史訳（ハーベスト・タイム・ミニストリーズ出版部、2016年）45–47頁。なお、フルクテンバウムは、「平和の君（サル・シャローム）」のみ「神にも人間にも使える言葉」ではあるが、「イザヤ書だけに限定すれば、平和の働きは神のわざとしてしか描かれていない」ことを指摘している。

³ Thomas Schreiner は、「イザヤ書で既に取り上げられていたダビデ的約束としもべを結びつければ、しもべが王を表していることは明確である」と述べている (*The King in His Beauty: A Biblical Theology of the Old and New Testaments* [Grand Rapids, MI: Baker, 2013], 344)。

⁴ 49章における「しもべ」の解釈については、以下を参照のこと。鍋谷堯爾『イザヤ書注解（下）24–66章』（いのちのことば社、2014年）189–93頁。

⁵ 前掲書、182頁。

⁶ 例) Anthony Hoekema, *The Bible and the Future* (Grand Rapids, MI: Eerdmans, 1979); G. K. Beale, *The Book of Revelation*, *The New International Greek Testament Commentary* (Grand Rapids, MI: Eerdmans, 2013).